

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 桜丘小 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

#### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

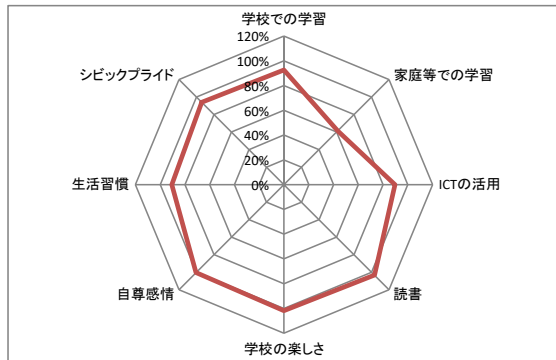
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	普段のテスト等と出題の仕方や解答用紙への記入方法の違いへの不慣れもあり、後半の問題になるほど無解答率が高くなっている。(10~23%)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	立式や計算はおおむねできているが、求め方やグラフから読み取った内容を記述して説明する問題に関して苦手意識をもつ児童が多く、全国平均と比べて差が開いている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める問題	
	努力が必要な問題	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・	「学校に行くのは楽しいと思う」「友達関係に満足しているか」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。
・	「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」との問いに対しては95%以上の児童が肯定的に回答している。
・	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」など、家庭での学習に対する回答がいずれも全国の結果と比べ、大幅に低かった。今後は、家庭学習の定着を促す工夫をしていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・ 学習の基礎の定着を図るため、授業時間以外にパワーアップタイム（補充学習の時間）を設け、各学年に担任外の教諭を配置し担任とともに指導に当たっている。また算数を中心に少人数での学習を行っている。
---

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 学級、学年、学校通信で、宿題の進め方や生活習慣の改善について適宜情報発信している。
---